

アート アンド サイエンス ファウンデーション



Art and  
Science  
Foundation

## アーツ アンド サイエンス ファンデーション

### (1) 目的

ロレアル社はもともと人体の美に関連するコスメティック科学技術の分野で活躍してきた企業で、コスメティック科学技術に関連する皮膚科学や生命科学の分野での関連科学技術の研究者の支援を行ってきました。

しかし、これだけに止まらず、生命科学とその関連分野の研究者、科学と芸術の創造的な出会いに貢献している人を支援し、表彰することを目的とした「アーツ アンド サイエンス ファンデーション」を創設することにしました。

### (2) ファンデーションの性格と位置づけ

このファンデーションはいわゆる財団法人、社団法人として行う事業ではなく、ロレアル社から毎年ファンデーションの目的に沿って支出される必要な経費をもとに非営利の任意団体が運営にあたり、事業を行います。

### (3) 1997年度の主な事業

#### ①ロレアル賞

ロレアル賞はロレアルグループからの拠出金に基づいて科学と芸術の創造的な出会いに貢献している人を表彰するもので、1997年度、1998年度は広い意味での色を対象領域として論文・作品等を募集します。

ロレアル賞には、ロレアル大賞（2人以内、各400万円）とロレアル奨励賞（2人以内、各200万円）の2種類があります。締め切りは1997年度は4月30日（水）、応募資格は日本在住者に限ります。

#### ②カラーワークショップ

カラーワークショップは、科学・工学・心理学・文化・芸術などの各分野の専門家による討論やワークショップを通して、色に関する最近の動向を明らかにすることを目的としています。

#### ③外国人の日本への招聘助成

ロレアル社と特に関連のあるコスメティックサイエンス、皮膚科学、および生命科学ならびにそれらの関連科学技術分野の研究者等（40才未満）を日本へ招聘します。選考はロレアル社研究開発本部を含む日仏学識経験者で構成される選考委員会によって決定されます。



## 「ロレアル賞」募集のお知らせ



ロレアル賞選考委員長 イリア・プリゴジン教授とともに  
with Prof. Ilya PRIGOGINE  
(Chairman of Screening Committee)

このたび当ファンデーションは、世界のコスメティック文化をリードするロレアルグループからの拠出金に基づいて「ロレアル賞」を設け、その運営にあたることにいたしました。ロレアルは長年にわたって、最先端の科学技術を製品の開発に応用し、基礎科学を駆使しながら、世界中の人々の美と健康の向上を目指して参りました。

科学と芸術が相互に刺激しあい、新しい分野、概念、作品を産み出すような出会いの創造を奨励していきたいと存じます。

1997年度のロレアル賞は、広い意味での「色」を対象領域とします。

分野を問わず、多数の方々の応募をお待ちしております。

アーツ アンド サイエンス ファンデーション  
代表 河本 哲三

### ● 募集要項

#### 1. 「ロレアル賞」の種類

ロレアル賞には、二種類の賞があります。同時に二つの賞に応募することはできません。

##### (1) ロレアル大賞

科学と芸術の創造的な出会いに貢献している人を表彰します。

##### (2) ロレアル奨励賞

ロレアル大賞に準じますが、対象者は40才未満の若手とします。

#### 2. ロレアル賞の対象領域

1997年度および1998年度のロレアル賞の対象領域は次の通りです。対象領域はおおむね2年程度で変更します。

### テーマ 「色」

色の物理学・化学、色の生理・心理、色の技術、色の歴史・風土などの文化論  
色に挑戦する芸術一般（作品、著書、論文、メディア等を含む）

#### 3. 応募受付期間

応募の受付期間は1997年1月6日(月)から1997年4月30日(水)とします。応募方法に従って応募書類を作成し、アーツ アンド サイエンス ファンデーション宛に送付してください。

#### 4. 応募資格

日本在住者に限ります。

国籍、年齢は問いません。

## 5. 応募方法

下記の書類を各8部作成し、下記住所宛に送ってください。e-mailによる送付はお受けできません。使用言語はすべて英語です。

- (1) 「ロレアル賞」応募用紙  
(アーツ アンド サイエンス ファンデーションまでご請求ください)
- (2) 科学と芸術の創造的な出会いと応募者との関わりを説明した文書  
(英文1,500words以内)
- (3) 論文または応募作品の概要(英文1,500words以内)
- (4) 論文の詳細報告書(英文9,000words以内)、または作品のカラーフィルム(35mmスライド)またはビデオテープ(VHS)8部。出版物があれば、参考に添付してください。
- (5) 応募者の経歴と業績目録をつけた履歴書、白黒またはカラーの身分証明書サイズの写真を添えてください。

送付先: アーツ アンド サイエンス ファンデーション

住所 〒300-26 茨城県つくば市東光台5-5

電話 0298-47-7983

- 応募書類および作品は返却しません。
- 受賞作品は、この賞に関する広報活動に使用させていただきます。

## 6. 選考日程

1997年5月から1997年6月まで選考委員会によって選考します。選考結果は7月上旬に応募者に連絡し、記者発表も行います。

## 7. 選考委員会

イリア・ブリゴジン教授(ベルギー、ブリュッセル自由大学教授、ソルベイ物理化学国際研究所長、アメリカ、テキサス大学オースチン校統計力学・熱力学センター所長、1977年ノーベル化学賞受賞)を委員長とする国際選考委員会によって選考されます。

## 8. 受賞者

- (1) ロレアル大賞受賞者は2人以内で、それぞれ400万円贈呈されます。  
1997年7月17日(木)東京で開催予定の授賞式に招待されます。
- (2) ロレアル奨励賞受賞者は2人以内で、それぞれ200万円贈呈されます。  
1997年7月17日(木)東京で開催予定の授賞式に招待されます。

## ● お問い合わせ先

アーツ アンド サイエンス ファンデーション

住所 〒300-26 茨城県つくば市東光台5-5

電話 0298-47-7983

ファックス 0298-47-7985

e-mail: [tsu01490@koryu.statci.go.jp](mailto:tsu01490@koryu.statci.go.jp)

<http://www.nihon-loreal.co.jp>



## 第2回 ロレアル賞

### 自然の根底にあるもの —— 「色」

芸術と科学の創造的な出会いに貢献した人を表彰するロレアル賞も今年で2年目になりました。昨年に引き続いて「色」というテーマのもと多くの作品が寄せられました。今回は2度目ということもあって賞の趣旨が十分に理解されたようで質の高い作品が多く、選考委員一同を喜ばせ、また困惑させました。芸術と科学とは、それぞれある意味ではまったく異なった基準をもとにして行われる活動です。

その二つの出会いに対して、一般的に機能するような基準などどこにもありません。ということは、自然科学者と芸術関係者からなるわれわれ選考委員会のこの選考自体が、ある意味ではそのつど、「芸術と科学の出会い」についての判断を創りあげていくということになります。選考のための議論が長時間にわたって白熱したのも当然なのです。

しかし、今回は、その選考を通じて、自然の根底にある複雑な構造が「色」として現れる場所に科学と芸術との秘められた、本質的なつながりがあることがはっきりと浮かびあがってきました。作品からいろいろなことを学ぶことができる豊かな選考となりました。

その選考を通じて、われわれは大賞として逢坂卓郎氏を選びました。また、これ以外に最終選考に残った候補者のなかから、とりわけ将来の大きな発展を期待しつつ、奨励賞として、大澤研二・尾畑伸明・吉田徹彦の三氏のグループと森脇裕之氏を選びました。

#### ロレアル大賞

- 逢坂 卓郎 「Appearance and Disappearance —生成と消滅—」

#### ロレアル奨励賞

- 大澤 研二・尾畑 伸明・吉田 徹彦 「色彩パターン化による一次元配列の情報解析法」
- 森脇 裕之 「Geo-Sphere」

## 選考過程

### 【第1次選考】

小林委員が芸術部門、永山委員が科学部門を担当し、芸術部門10名、科学部門9名、計19名が第1次選考通過。

### 【第2次選考】

第1次選考を通過した19名について、委員全員が科学点10点、芸術点10点の20点満点で採点。合計点の上位10名が第2次選考通過。  
(ただし、委員のうち誰か一人でも10点をつけた応募者は、合計点にかかわらず第2次選考通過とした)

### 【最終選考】

7月17日(金)日本時間午後4時から、KDD大手町ビルの国際テレビ会議室で、東京とパリを結び、国際選考委員会による最終選考を行なった。再度上位10名を選考し、2時間以上にわたる白熱した討議の後、ロレアル大賞1名、奨励賞2名を決定した。

## 1998年度 国際選考委員会メンバー

### ● 名誉委員長

イリヤ・ブリゴジン      ベルギーブリュッセル自由大学名誉教授 1977年度ノーベル化学賞受賞(散逸構造論)

### ● 委員

大山 正      日本学術会議会員、放送大学客員教授(色彩心理学、実験心理学)

ジュゼッペ・カリオティ      ミラノ理工科大学教授(物性物理学)

ピエール・クレ      フランス国立科学研究センター(CNRS)教授(非線形理論)

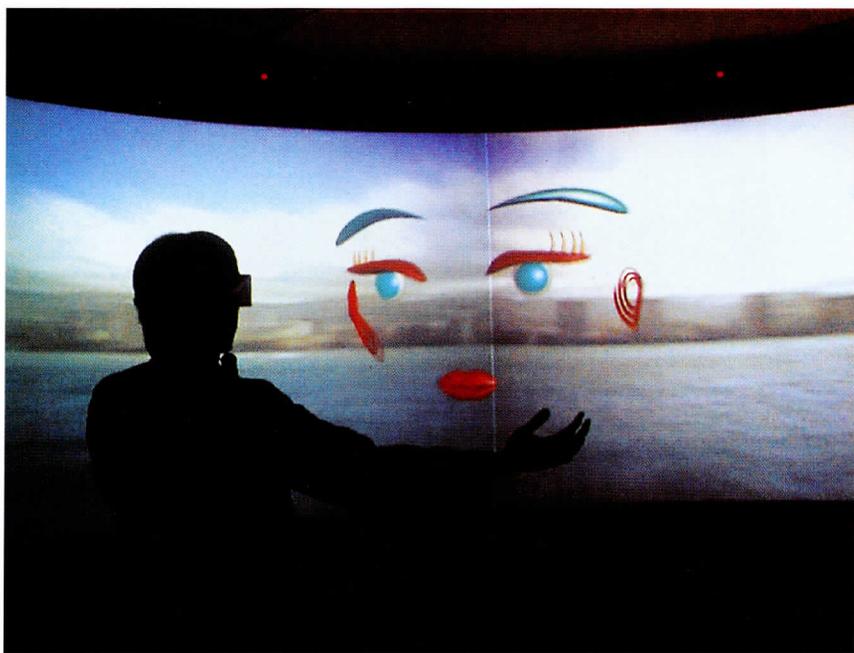
小林 康夫      東京大学総合文化研究科教授(表象文化論)

田中 一光      グラフィック・デザイナー

永山 国昭      岡崎国立共同研究機構生理学研究所教授(生物物理、生体計測学)

前田 富士男      慶応義塾大学文学部哲学科美学美術史専攻教授(西洋美術史、美術学)

(50音順)



1997

## 第1回 ロレアル大賞

中津 良平  
土佐 尚子

### 「インタラクティブ・ポエム」

顔を持ったコンピュータとの対話により、情感に満ちた「詩」の世界を映像化したインタラクティブな作品

コンピュータ・テクノロジーに依拠しながらそれをきわめて人間的な対話へと方向づける仕事であり、高度なテクノロジーのただなかに人間的な世界を表現しようとするヒューマンな創造性が、多くの審査員の共感と呼んだ。コンピュータによるコミュニケーションと、たとえばわれわれの日常世界の基底をなしている顔の表情や声の読み取りのコミュニケーションとが、ここでは「詩」という方法論を通じて融合させられているといってもいいだろう。そうしたヒューマンなコミュニケーションを可能にする空間として、さまざまな色彩についての高度な空間的操作が見られることが注目を集めた。



**中津 良平** (なかつ りょうへい) 1946年生まれ。1969年京都大学工学部卒。1971年京都大学大学院修士課程修了。日本電信電話公社(現NTT)武蔵野電気通信研究所入所。1980年横須賀電気通信研究所にて音声認識の基礎研究、応用研究に従事。1990年NTT基礎研究所研究企画部長。1991年NTT基礎研究所情報科学研究部長。1994年(株)ATRに出向。現在、(株)ATR知能映像通信研究所代表取締役社長。マルチメディア要素技術の研究およびマルチメディア技術を応用した通信方式の研究などを行っている。1982年工学博士(京都大学)。1978年度電子情報通信学会学術奨励賞。IMS'96最優秀論文賞。IEEE、電子情報通信学会、日本音響学会、情報処理学会、人工知能学会会員。



**土佐 尚子** (とさ なおこ) 1961年生まれ。アーティスト、ATR知能映像通信研究所客員研究員、神戸大学客員助教授、武蔵野美術大学映像学科非常勤講師。感情、意識、無意識といった見えないものを視覚化することをテーマに、それをテクノロジーを使って疑似生命体として表現することに興味をもち、実験映画、ビデオアート、CG、インタラクティブアートなどの領域を研究、制作を行う。SIGGRAPH(シーグラフ) ARS ELECTRONICA(アルスエレクトロニカ)といった、世界で代表的な芸術とテクノロジーの国際会議にて、講演と共に作品発表。ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館等の企画展に招待展示。アメリカンフィルムアソシエーション、国立国際美術館、O美術館、富山県立近代美術館、名古屋県立美術館、高松市立美術館で収蔵されている。



**Art and  
Science  
Foundation**

アーツ アンド サイエンス ファンデーション  
〒300-26 茨城県つくば市東光台5-5  
Tel. 0298-47-7983  
Fax. 0298-47-7985

Art and Science Foundation  
5-5 Tokodai, Tsukuba, Ibaraki 300-26, Japan  
Tel. +81-298-47-7983  
Fax. +81-298-47-7985

e-mail : [tsu01490@koryu.statci.go.jp](mailto:tsu01490@koryu.statci.go.jp)  
<http://www.nihon-loreal.co.jp>

